

京をうるおす命の水

明治維新に伴う東京遷都で都の座を奪われた京都は、文化の衰退、人口激減が起こり、荒廃の一途をたどっていた。新たな都市として再生が議論されるなか、経済復興の施策として誕生したのが琵琶湖疏水計画である。全長約20キロメートルのほとんどを人力で掘削するという明治の一大プロジェクトであった。



第一トンネル東口にかかる「氣象萬千」の扁額
は、伊藤博文の揮毫

焦土と化した千年王城へ 希望をもたらす水のみち

春、疏水べりに山桜が咲き誇る。明治22（1889）年、琵琶湖疏水完成の折に美観を添える目的で植栽されたものだ。滋賀郡役所や地元の有志によって寄贈され、桜だけでなく、松、梅、柳、楓、ツツジ、藤など多種に及んだ。そのいくつかは、129年を経たいまも四季を彩る。琵琶湖の水を京へ引くことは長年の夢であった。中世以来、北陸諸国からの物資は湖上輸送を経て大津で荷揚げされ、陸路で京へ運ばれた。車馬による輸送量は、舟運に比べてはるかに劣る。琵琶湖と京を結ぶ舟運路の開発が求められた。

水路計画は江戸時代から散見される。

掘削には、日本初の堅坑（シャフト）工法が採用された。山の両側から掘り進めるとともに、途中で約50メートルの堅坑を垂直に掘り下げ、堅坑から両側に向かつて掘り進む。多量の湧水によって、工事は困難を極めた。一時は絶望のあまり、疏水工事全体の断念を考えざるを得ない所まで追い込まれた」と田辺は記している。

明治23（1890）年、三保ヶ崎の取水口から鴨川合流点まで完成する。4年8カ月の工期のうち、第一トンネルだけで4年4カ月を費やし、17人が工事に殉じた。蹴上の船溜まりからは急勾配になるため、斜面に軌道を敷いたインクライン（傾斜鉄道）を設置。明治25年から27年までの工事で、鴨川合流点から伏見までの水路が通り、第一疏水は完成に至る。

琵琶湖疏水は通船のほか、エネルギー源、上水道用水、工業用水、灌漑用水などの多目的を有していた。明治24年には世界で2番目となる蹴上発電所が建設され、当時最大の発電能力を誇った。

明治30年代に入ると、第一疏水の流量では毎年増大する電力の需要が満たせなくなった。また、地下水に頼っていた市民の飲料水が質・量ともに課題となる。これに対し、西郷隆盛の子である第2代京都市長・西郷菊次郎は、第二疏水を計画する。明治45（1912）年、第

明治21年、第二トンネル東口の洞門工事。疏水で大量に使われた煉瓦は、京都府山科区御陵原西町にあった琵琶湖疏水煉瓦工場で生産された



しかし、大津と京の標高差を解決できず、実現性に乏しかった。文久2（1862）年、京守衛の任務にあった豊後国岡藩主・中川久昭は、琵琶湖通船計画を朝廷に建議する。比叡山の谷間を掘る航路案だったが、測量が不十分で却下された。翌年、江戸幕府は輸送手段の早期開拓に向けた建議を奨励する異例の触書を流した。

後年、京は禁門の変で焦土と化し、明治維新後の東京遷都によって衰退する。産業の復興とまちの活性化を目指して立ち上がったのが、第3代京都府知事・北垣国道である。安積疏水（福島県猪苗代湖）工事の主任技師であった南一郎平らに、舟運路となる琵琶湖疏水計画の調査を依頼。大津京都間の測量を島田道生に命じ、工部大

二疏水とともに蹴上浄水場と発電所を増設。日本最初の路面電車が京都七条から伏見までの区間を走った。この成功は京都に新たな活力をもたらし、日本の近代化に大きく貢献した。

67年ぶりに観光船が復活 先人の苦労に思いを馳せて

水力発電の電力は、紡績、伸銅、機械、タバコなど新たな産業振興をもたらした。しかし、開通から十数年に渡って利用された舟運の需要は、鉄道や道路網の発達により減少していく。伏見行き下りは昭和10（1935）年にゼロとなり、大津行き上り貨物は翌年になくなった。昭和23年には蹴上インクラインの運転も停止し、その役割を終えた。

長らく点検以外の目的では運転されていなかった通船だが、今春より「琵琶湖疏水通船」として67年ぶりに再開さ



昨年の試乗会では越直美大津市長や門川大作京都市長が乗船。観光振興と地域の活性化に期待を寄せた

琵琶湖疏水通船

【実施期間】3月29日（木）～11月28日（水）※運休日あり、6～9月を除く
【予約受付】2月1日（木）より（10～11月の乗船分は8月13日から）
乗船の申し込みは、ウェブサイトにて受付。
ふるさと納税（5万円分以上）で乗船招待。
<http://www.biwako-sosui.jp/>
【TEL】075-365-7768（9:30～17:30、土日祝休）
【問合せ】びわ湖疏水船受付事務局（JTB西日本京都支店内）



琵琶湖疏水記念館

京都市左京区南禅寺草川町17
【TEL】075-752-2530
【開館時間】
3月～11月／9:00～17:00（入館16:30まで）
12月～2月／9:00～16:30（入館16:00まで）
【入場料】無料